

令和3年度 学力向上プラン

学校名 中央区立泰明小学校

学校の教育目標

○よく考える子ども ○思いやりのある子ども ○たくましい子ども

教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

児童が、「何のために学ぶのか」を認識し、「何を学ぶのか」が明確に理解でき、「どのように学ぶのか」を考えることができる授業の具現化に努める。そのために、『主体的、創造的な深い学びの実現を図るために、経常的な教材研究、教材開発の推進』をキーワードとし創造性に富んだ授業づくりに励むことを、泰明小学校としての教育実践目標とする。

令和2年度「学習力サポートテスト」や令和2年度学力向上プランの検証結果等の分析や、日常の学習の様子等から見られる課題及び要因

	児童の学力の課題	主な要因
国語	令和3年度「学習力サポートテスト」の結果も、全て目標値を上回り、区の平均値も上回っている。しかし、叙述の深い読み取りや表現力については、個人差が大きい。また、文章を書く問題については、無解答の児童が他の問題に比べて多い傾向が見られる。漢字については、正確に書くことに課題が見られる。読書については、励行中だが内容に偏りが見られる。	読み取りや表現力については、知識はあるが、文を構成したり、推敲したりする力が十分身に付いていないと考えられる。 また、通塾や習い事が多く、読書や日常的な会話に当てる十分な時間が取れないことも要因の一つではないかと考えられる。
算数	令和3年度「学習力サポートテスト」の結果も、全て目標値を上回り、区の平均値も上回っている。しかし、理由や説明を自分の言葉で表現する問題の誤答が多く見られる。この傾向は、全国学力・学習状況調査の結果からも見られた。また、基本的な計算問題の誤答も多い。図形の作図についても課題が見られた。全体的に空間認知能力を必要とする内容については、やや苦手な児童が多い。	通塾している児童が多く、問題の解決方法は知っているが、解決までの過程を考える経験が少ないことが考えられる。作図については、技能を高めるための活動が少ないことが要因と考えられる。問題の題意を十分理解せず解答を急ぐ傾向があり、それがケアレスミスに繋がっている。
社会	令和3年度「学習力サポートテスト」の結果も、全て目標値を上回り、区の平均値も上回っている。しかし、資料から必要な内容を読み取ることが弱い傾向がある。また、読み取ったことを自分の言葉で表現する問題については、誤答や無解答が多い傾向にある。	資料の読み取りについては、社会的な事象への興味・関心の低さが起因する。また、資料から見えてくる原因や理由について、深く考える経験が少ないと思われる。
理科	令和3年度「学習力サポートテスト」の結果は、植物・天気・月や星の単元の問題で、正答率が目標値を下回っている。また、説明を求められる問題については、無解答の児童が多い。4年生については、「音のせいしつ」の問題の正答率が大きく下回っている。	知識専攻型で課題の結果を知っているが、都市部の児童ならではの経験不足が要因と考えられる。 観察や実験の目的を明確にし、知識と技能を連動させる取り組みが必要である。
英語	令和3年度「学習力サポートテスト」の結果では、全て目標値を上回っている。基本的な表現を推測しながら聞く・読む、そして語順を意識しながら書くことについては個人差が見られる。	間違えることに抵抗のある児童が英語の活動に消極的になる傾向がある。また、読む・書くについては、まだ苦手意識や不慣れさがあると考えられる。

<p>体育</p>	<p>コロナ禍による巣ごもり生活から体力低下を危惧していたが、体力テストの結果は、概ね良好であった。但し、男子は走力、女子は投能力に課題が見られた。</p>	<p>日頃の運動量や運動経験の差が大きい。校内研究教科である体育科を通して、体力向上の補填を図った。体力テストの好成績は、それに起因するものもあると考える。</p>
-----------	--	--

<p>学力向上に向けた視点</p>	<p>年度末までの目標及び指標</p>
<p>① 学力基盤</p>	<p>授業の振り返りを重視し、自分の成果と課題・今後のめあてを意識して学習することで、明確な目標をもって効率的に学習に取り組めるようノート指導を充実させる。学習指導補助員による支援や少人数指導、各自の課題にそった教材の工夫を図る等して個に応じた学習を展開し、基礎学習力を上げる。東京ベーシック・ドリルの診断シートの正答率では、全学年80%以上を目指す。</p>
<p>② 授業改善</p>	<p>学習の内容に応じたタブレット端末の有効活用を考える。児童が主体的に学習に取り組めるような資料の収集場面を設定したり、情報を共有したりできるようにする。年間を通じて体験型の学習やアクティブラーニングを取り入れる等、授業内容を工夫し、児童が「学ぶ喜び」を感じられる指導技術を磨く。</p>
<p>② 教員の指導力</p>	<p>「中央区小学校授業スタンダード」等を参考に授業の基礎的指導力を磨く。また、ICT委員会が中心となって研修の機会を学期に1回以上設け、タブレット端末の様々な活用方法を身に付け、有効に生かせるようにする。</p>
<p>③ 家庭との連携</p>	<p>家庭学習は、基礎的・基本的な内容の定着を図ることを目的とし、宿題提出率は全児童100%を目指す。また、年間を通じて地域と連携した活動について協力・参画を促す。</p>
<p>⑤ 体力向上</p>	<p>体力テストの分析結果より課題の見える項目については、区の平均以上を目指す。日常的活動として縄跳びの奨励や「泰明タイム」また、「泰明マラソン」等の体育的行事をより充実させる。</p>



【目標達成のための具体的な取組内容】

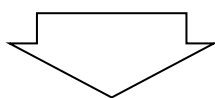
<p>① 学力基盤</p>	
<p>取組Ⅰ</p>	<p>各授業の終末に「振り返りの時間」を設ける。また、算数科等、ノート記述を重視する教科の担当者がノート記述のモデル例を4月中に提示し、それを基に学年の実態に合わせたノートの記述方法を検討し、学年で統一した丁寧なノート指導を徹底する。</p>
<p>取組Ⅱ</p>	<p>よい言葉遣いができる児童、ノート記述に創意工夫のある児童等、手本となる児童は、積極的に認め、学校全体あるいは各学級で賞賛することで、他の児童にも意識化させていく。</p>
<p>取組Ⅲ</p>	<p>日々の算数の授業を通して、関係する教員が情報交換し合い、必要に応じてコースごとに教材を変えたり、発問を変えたりする工夫を行う。</p>

②授業改善	
取組Ⅰ	管理職による授業観察を行い、児童が意欲的に学習に取り組める授業構成や指導技術であるかを判断し、よりよい授業を目指して、必要に応じて指導助言や資料提供等を行う。
取組Ⅱ	児童が主体的に学習に取り組めるような授業づくりをする。地域や出前授業等を活用して、児童が自ら課題をもち、「調べたい」「やってみたい」と意欲的に取り組める授業を構築する。
取組Ⅲ	校内研究では、各教科等でのタブレット端末の有効な活用方法を考えて行く。年間を通して、ICT委員会を中心にタブレット端末の活用に向けての研修会を行う。児童にタブレット端末の活用方法を身に付けさせるとともに、必要に応じてネットリテラシーについても十分指導していく。

③教員の指導力	
取組Ⅰ	学習力サポートテストによる学力調査や、校内で実践するテスト結果を基に、児童の習熟度の実態を具体的に把握し、課題の見られる内容については、補助指導の時間を設けて100%習熟を目指す。特に、理科・社会については基礎・基本の定着を徹底する。
取組Ⅱ	「中央区小学校授業スタンダード」等のモデルを参考にするとともに、OJTの充実を図る。ベテラン教員やICTを含む技能や教科の専門性の高い教員が、授業を公開する機会を設け、効果的な指導方法について学び合える環境を整える。
取組Ⅲ	都や区への研修への参加を奨励する。教員は、積極的に研修に参加し、指導技術を磨くとともに、研修の成果を校内で共有する。C4thの校内掲示板を活用し、情報提供を日常化する。

④家庭との連携	
取組Ⅰ	地域と連携した活動について、保護者の協力を適時求め、数多く参加してもらうことで学校の経営方針や教育活動を理解してもらい、より充実した活動の実現を目指す。
取組Ⅱ	保護者会や学校からの通知文、さらにホームページやタブレット端末のコミュニケーションツールを通して、繰り返し本校の学校経営方針や学校目標の周知を図り、理解・協力を促す。
取組Ⅲ	学校評価等を通して、本校の教育活動への意見を吸い上げるとともに、その結果と対策をホームページや保護者会で公表する。家庭学習の徹底や生活指導面への理解・協力を求める。

⑤体力向上	
取組Ⅰ	本校の特色ある教育活動の「泰明マラソン」やマイスクールスポーツの縄跳び指導については、コロナ禍での取り組み方を工夫し、楽しみながら体力を向上させるようにする。
取組Ⅱ	体力テスト結果を基に、児童の運動能力と課題の実態を具体的に把握するとともに、効果的な指導方法や技術の習得の仕方を学ぶ機会を設ける。



【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点	取組の成果	取組の課題
① 学力基盤	<p>「振り返りの時間」を設けることで、自分の成果と課題を明確にできる児童が増加した。</p> <p>ノートの記述については、各学級で手本となるようなノートを適宜紹介し、必要なことを書き加えるなど、自分で工夫したノート作りを意識できるようになってきた。</p>	<p>東京ベーシック・ドリルの平均正答率は、2年生と4年生は80%以上であったが、それ以外の学年は70%であった。ケアレスミスをする傾向があることから、普段から見直しをするよう指導を継続する。</p>
② 授業改善	<p>児童が学習に意欲的に取り組めるように、単元計画に出前授業や校外学習を効果的に設定することができた。</p> <p>研究授業の協議会では、改善点を踏まえた意見を出し合うことで、自分事として捉え、今後の自分の授業に生かすことができるようになった。</p>	<p>児童一人一人が「調べたい」「やってみよう」と思えるような課題の提示の仕方を工夫し、主体的に課題を捉え、取り組めるような授業を構築していくことが課題である。</p>
③ 教員の指導力	<p>児童の学習の習熟状況を学年や関係している教員で情報共有し、課題の与え方や指導の仕方等について確認し実践につなげていた。</p> <p>学期に1回、授業でのタブレット端末の活用を紹介しあい、様々な活用方法を学ぶことで、日々の授業にタブレット端末を活用することができた。</p>	<p>教員同士がお互いに学び合える機会として、計画的にOJTを推進していく。</p> <p>また、教育会等の研修の機会が増えてきたので、研修で得た情報や成果をC4thを活用して、積極的に発信し、教員の指導力を高める。</p>
④ 家庭との連携	<p>保護者が来校し、児童の様子を参観する機会は少なかったが、タブレット端末のGoogle Classroomを活用して、定期的に児童の様子を伝えることができた。</p> <p>また、学校評価の保護者アンケートにおいても、ほとんどの項目で8割以上の肯定的評価を得ることができた。</p>	<p>年度初めに、家庭学習の意義を児童と保護者に再度確認する必要がある。</p> <p>オンラインによる学校公開を行ったが、活動内容によってカメラの位置を変える必要がある、児童の声が聞き取りにくいなどの課題が見えたので、改善していく。</p>
⑤ 体力向上	<p>体力テストの結果は、全学年、区の平均以上となった。</p> <p>体育科の学習では、体育指導補助員を効果的に活用することができた。個々の児童に合った支援や助言をする機会が増えたり、担任と役割を分担したりすることで、児童の運動時間の確保につながった。</p>	<p>体力テストのソフトボール投げの結果では、4つの学年が全国の平均を下回っていた。朝の時間に運動を行う「泰明タイム」で、投力の向上を図る種目を定期的に取り入れていく。</p> <p>マイスクールスポーツの縄跳びや「泰明マラソン」等、実施方法を工夫し、児童の体力向上を目指す。</p>